

特別なおもち

大崎市立古川第二小学校 5年 石野陽也

もう少しでいねかりが始まります。ぼくの山形のじいちゃんとばあちゃんは、農家です。家で食べている米は、二人で作った山形のお米です。毎年いねかりが終わると、新米のもち米でもちをついて、神だなにそなえてしゅうかくのお礼をします。じいちゃんのうちにはうすがあって、じいちゃんとばあちゃんが協力してもちをつきます。

つきたてのおもちは、何とも言えないやわらかさで最高です。もちつき機でついたもちとまったくやわらかさがちがいます。この最高のもちを食べさせてくれるためにじいちゃんとばあちゃんは農作業でつかれていても、もちをついてくれます。

じいちゃんがもちをついて、ばあちゃんがもちを返す役わりです。まず、むしたもち米をうすに入れて、きねでもちをつぶすようにこねます。その後もちをつき始めます。もちつきを見ていたとき、何回きねでつくのか数えたら、150回ぐらいついていました。じいちゃんは、いつもかたやこしがいたいと言っている

「大じょう夫？」

と聞くと

「陽也たちの喜ぶ顔を見るとこしのいたいのもわすれるよ。」

と言ってくれて、何だか申しわけない気持ちになりました。

熱々のもちをす手で返すばあちゃんの手も心配になります。

「ばあちゃん熱くないの？」

と聞くと

「大じょう夫だよ。農家を何十年もやってきて手の皮があつくなっているんだよ。」

と言っていました。たしかにお母さんの手と比べるとしわが多くきざまれているだけでなく、固くてざらざらしている感じがしました。二人が苦勞してついでくれたもちなので、はずかしくて口に出せませんが、心の中で「ありがとう」と言っています。

ぼくが大人になって結こんしたら、もちつきのやり方おしえてね。それまで長生きしてね。ぼくがついたもちも二人に食べさせたいと思っています。今年の新米のもちつきも楽しみにしています。